

装具難民問題の解決に向けた スマホアプリの開発研究

未来デザイン学部 メディアデザイン学科 濱本 真由
弓野 詩苑

活動背景：

私たちは昨年度に引き続き、義肢装具の利用者を助けるためのアプリ開発研究に取り組みました。

近年、脳卒中患者の救命率の上昇とともに、脳卒中などが要因となる、運動麻痺の後遺症(運動障害)をかかえた方々が増えてきています。運動麻痺の後遺症がある方々の多くは、装具を利用して、日常生活を送っています。しかし病院で装具の作成後、リハビリを終えてからのアフターフォローがされておらず、装具が対象者に合わなくなってしまうという問題が多発しています。自分の体に合わない装具を利用し続けると、足が逆に曲がるような健康被害を受けてしまい、最終的には歩けなくなってしまう可能性があります。

こういった問題が装具難民問題と呼ばれています。

総合大学である本学の特徴と人脈を活かして、テクノロジーの側面からこの装具難民問題を解決したいと思い、この研究をスタートしました。

今年度の活用内容：

昨年度はアプリの開発に力を入れたので、今年度は「装具難民問題」について知ってもらうための活動に力を入れました。大きな活動としては、オンラインイベントの開催したことです。オンラインイベントには、50名程度の方参加してくれました。医療従事者の参加者が多かったこともあり、「装具難民問題」について知らないという方は少なかったですが、実際の装具ユーザーの声を聞ける時間や多職種の話を聞ける有意義な時間を作ることができました。



イベント中の様子



イベントのスライド

イベント後のアンケートからは、「北海道での新たな取り組みを知ることができた」や「ぜひ第2弾を企画して欲しい」という声が挙げられました。また、イベント後には道新の記者からの取材も受け、今後の「装具難民問題」について認知度の向上につながったと思います。

助成金の内訳：

学生2名の活動中の交通費・食費→各1万円

イベントで使用した機材代→1万円

イベントで講演していただいた方への謝礼→1万円

アプリ制作会社への指導等の謝礼→1万円